

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">~2022</div> <h1 style="margin: 0;">社会福祉原理論研究</h1>	単位数	履修方法	配当学年
	4単位	R	1・2年
	担当教員	田中 治和	

■授業のテーマ

社会福祉学批判——社会福祉学への根源的問いかけ

■授業の目的

社会福祉学の到達水準とその課題についての理解を目的とします。

■授業の到達目標

社会福祉学の概説的理解と論点の整理をして述べるができる。

■授業の概要

社会福祉学実践、及び社会福祉学研究の根源的課題について考究します。社会福祉は、歴史的には、(日本に限定しても) 慈恵、慈善事業、感化救済事業、社会事業、及び厚生事業等も名称変更を経ながら、現在の社会福祉に至っており、その過程では、社会政策や社会保障、更には、公的扶助との概念が交錯、あるいは相互関連しながら、一見わかりやすく(例えば、人間の幸せ等という言説)、されど説明し難い概念と言えます。

そこで、この講義では、日本の社会福祉の歴史の概要を学び、その底流のある“思想”や“理論”を理解し、そこにある社会福実践と呼ばれる事象への研究の共通性を学んでもらいたいと考えています。併せて、最近の社会福祉学研究の動向をも考究してください。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	日本の社会福祉史を学ぶ①	社会福祉史の書籍を図書館で借り(購入されて)、明治期から大正前半の救済形態について学修する。	現在の社会福祉成立までの過程を概説的に学び、特に慈恵、慈善事業、及び感化救済治事業について、学んでください。
2	日本の社会福祉史を学ぶ②	大正半ばから、昭和初めの救済形態について学修する。	社会福祉の出立点である社会事業の成立過程と、戦時体制下に大きく変質した厚生事業の概略を学んでください。
3	日本の社会福祉史を学ぶ③	敗戦後の復興期の社会事業の展開と、高度経済成長に成立した社会福祉について学修する。	復興期の社会事業の特色と、何故、高度経済成長下に社会福祉が成立したかを、当時の社会・生活の変貌との関連から、実証的に学んでください。
4	日本の社会福祉史を学ぶ④	1973年秋以降から1990年代の社会福祉の変貌を学修する。	いわゆる低成長期の社会福祉が、日本の生活等にどのような影響を与えたかを学んでください。社会福祉史の学びを通して、自らの研究課題が、いかなる歴史的意味があるか、否かも検討してみてください。
5	現状の社会福祉施策の動向を学ぶ①	厚生労働白書を読む。	厚生労働白書から、現状の社会福祉施策の現状と動向を学んでください。
6	現状の社会福祉施策の動向を学ぶ②	厚生労働省のホームページを読む。	厚生労働省のホームページの「分野別の政策：福祉・介護」から、現状の社会福祉施策の現状と動向を学んでください。
7	文献講読①	参考文献リストの必読図書を読む。	レポート課題2の作成を目指し、丁寧に読んでください。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
8	文献講読②	参考文献リストから、(可能ならば)戦前また1960年代の図書を読む。難しい場合は、任意に一冊選んで読む。	レポート課題2の作成を目指し、丁寧に読んでください。
9	文献講読③	参考文献リストから、1970年代、1980年代の図書を一冊選んで読む。	レポート課題2の作成を目指し、丁寧に読んでください。
10	文献講読④	近年の『社会福祉研究』を、概括的に読む。	レポート課題1の作成を目指し、丁寧に読んでください。
11	文献講読⑤	近年の『月刊福祉』を、概括的に読む。	レポート課題1の作成を目指し、丁寧に読んでください。
12	文献講読⑥	参考文献リストから、2000年代の図書を読む。	レポート課題1の作成を目指し、丁寧に読んでください。
13	文献講読⑦	日本社会福祉学会学会誌『社会福祉学』から、主に理論研究の一篇の論文を読む。	自らの研究課題と関連させながら論文を読んでください。あわせて研究方法、並びに学術論文の作法を学ぶ機会としてください。
14	文献講読⑧	日本社会福祉学会学会誌『社会福祉学』から、主に歴史研究の一篇の論文を読む。	自らの研究課題と関連させながら論文を読んでください。あわせて研究方法、並びに学術論文の作法を学ぶ機会としてください。
15	文献講読⑨	日本社会福祉学会学会誌『社会福祉学』から、主に分野論研究の一篇の論文を読む。	自らの研究課題と関連させながら論文を読んでください。あわせて研究方法、並びに学術論文の作法を学ぶ機会としてください。

■レポート課題

課題 1	現代社会における社会福祉学の課題を取り上げ、それらを論評しなさい。
課題 2	社会福祉学(社会事業論、救済事業論及び慈善事業論を含む)の学説、所説を一つ取り上げ、それを論評しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題 1
アドバイス

現代社会の諸問題のうち何を社会福祉学の課題とするのか、否か、が社会福祉学を研究する上で、重要な分岐点となります。

広く諸科学の動向をも概観(難しいことですが)しながら、社会福祉学の対象を見つけてください。社会福祉学の先行研究を大切にしてください。

課題 2
アドバイス

温故知新です。自らの社会福祉観を創出するためにも、先行する優れた理論を丁寧に学んでください。

■評価の方法・基準

レポート(60%)、試験(40%)

■参考文献(*印=大学から送付される必読図書)

- *1) 萩野浩基『感性のとき』ぎょうせい、2012年
- *2) 吉田久一・岡田英己子『社会福祉思想入門』勁草書房、2000年
- 3) 古川孝順『社会福祉学序説』有斐閣、1994年
- 4) 松井二郎『社会福祉理論の再検討』ミネルヴァ書房、1992年

- 5) 宮田和明『現代日本社会福祉政策論』ミネルヴァ書房、1996年
- 6) 真田是編著『戦後日本社会福祉論争』法律文化社、1979年
- 7) 吉田久一『日本社会福祉理論史』勁草書房、1995年
- 8) 濱野一郎・遠藤興一『社会福祉の原理と思想』岩崎学術出版社、1998年
- 9) 吉田久一『日本の社会福祉思想論』勁草書房、1994年
- 10) 社会福祉古典叢書（全10巻）鳳書院
『小河滋次郎集』、『生江孝之集』、『田子一民・山崎巖集』、
『渡辺海旭・矢吹慶輝・小沢一・高田慎吾集』、『海野幸徳集』、『志賀志那人・山口正集』
- 11) 竹中勝男『社会福祉研究』関書院、1950年、復刻版 日本図書センター
- 12) 日本社会事業専門学校編『現代社会事業の基礎』日本社会事業協会、1950年、復刻版 日本図書センター
- 13) 大阪社会事業短期大学編『社会事業講座（1～3巻）』福祉春秋社、1950年、復刻版 日本図書センター
- 14) 黒木利克『日本社会事業現代化論』全国社会福祉協議会、1958年、復刻版 日本図書センター
- 15) 竹内愛二『専門社会事業研究』弘文堂、1959年、復刻版 日本図書センター
- 16) 孝橋正一『全訂・社会事業の基本問題』ミネルヴァ書房、1962年
- 17) 岡村重夫『全訂・社会福祉学（総論）』柴田書店、1968年
- 18) 一番ヶ瀬康子『現代社会福祉論』時潮社、1971年
- 19) 木田徹郎『改訂・社会福祉概論』新日本法規出版、1971年
- 20) 塚本哲『社会福祉原理論』ミネルヴァ書房、1972年
- 21) 高沢武司『過渡期の社会福祉状況』ミネルヴァ書房、1973年、復刻版 日本図書センター
- 22) 高島進『現代の社会福祉理論』ミネルヴァ書房、1973年
- 23) 真田是『社会福祉労働論』法律文化社、1975年
- 24) 嶋田啓一郎『社会福祉体系論』ミネルヴァ書房、1980年
- 25) 三浦文夫『社会福祉政策研究-社会福祉経営論ノート』全国社会福祉協議会、1985年
- 26) 日本社会福祉学会『社会福祉学研究の50年』ミネルヴァ書房、2004年
- 27) 池田敬正『福祉原論を考える』高菅出版、2005年
- 28) 古川孝順『社会福祉原論（第二版）』誠信書房、2005年
- 29) 三島亜紀子『社会福祉学の〈科学〉性』勁草書房、2007年
- 30) 池田敬正『福祉学を構想する』高菅出版、2011年
- 31) 大友信勝・永岡正己編『社会福祉原論の課題と展望』高菅出版、2013年